



こやの里特別支援学校

(第9号)

令和5年 12月 1日 (金)

兵庫県立こやの里特別支援学校

校長 石川 勝己

「きょうの一日をたいせつに」

教頭 殿内 境

教頭の殿内 境 (とのうち さかい) です。よろしくお願ひします。平成31(令和元)年度と令和2年度の2年間こやの里特別支援学校に在籍していましたので、3年ぶり二度目の赴任です。

前回の赴任時から、私は本校の校歌が好きで、前向きに進もうと思える歌詞にいつも元気づけられます。本校の福島 守第2代校長と創立当初におられた村越 太津美教諭とが作られた詞の中でも、私は「きょうの一日をたいせつに」の一節が特に気に入っています。ちなみに、「一日」の校歌中の読みは「いちにち」ではなく「ひとひ」です。この詞に出会ってから、一日一日を大事にしなければいけないと、以前より強く思うようになりました。

1日の長さは、24時間と決まっていますが、人によって感じる長さは違います。もちろん同じ人でも日によってまたは場面によって感じる長さは異なることでしょう。最近修学旅行に行った学年の児童生徒の皆さんは、あっという間に修学旅行が終わったと感じた人も多いことと思います。楽しい時間はなぜか早く過ぎ去り、苦手なことをしないといけない時は時間がなかなか流れてくれないと感じることもよくあります。子どもの頃の1日と大人になった後の1日の長さの感じ方の違いも、よく話題にのびります。今日1日がどう展開するかわからない(見通しが持てない)時は、大人でも1日が長く不安を感じたり、イライラしたりすることもあります。本校の児童生徒の皆さんには、1日の始まりや授業の最初に見通しを持ってもらうように必ずスケジュールの確認をし、子どもたちは1日(あるいは1時限)の見通しを持って過ごせるようにすると、授業等の学習活動への集中力も増し、1日(または1時限)を短く感じることに繋がります。

生物全体を見渡すと、生態や体の大きさの違いによってその生物の持つ時間が違うそうです。以前、高校の国語科教員をしているときに教材で扱ったことがあります。動物生理学者の本川達夫氏の著作『ゾウの時間ネズミの時間』(中公新書、『絵とき〜』版は福音館書店)では、全ての生物は一生に心臓が15億回鼓動するという仮定のもと、ゾウの心拍はゆっくりで、ネズミの心拍はその数十倍のスピードであるため固有の時間と寿命に差が生じる、と述べています。子どもと大人の心拍の違いが、時間の感じ方に違いを生んでいることも動物生理学的に説明されています。同じ長さの時間でも、ネズミの方がゆっくり感じ、ゾウは速く過ぎていると感じるといふことになります。

私たち人間に戻すと、同じ長さの1日を子どもはゆったり感じているのに対し、経験を積んだ大人の方が短くせかせかと感じるということは、やはり大人の方が子どもの過ごし方等について考えないといけないということになるのでしょうか。単に経験量の違いだけでなく、本校の児童生徒の皆さんに「きょうの一日をたいせつに」してもらうためには、私たち教員は支援方法を工夫し、日々研鑽を積んでいかなければならないと思います。